2015年　世界文化遺産登録

明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

「明治日本の産業革命遺産」は，2015年7月に開催されたユネスコ世界遺産委員会において，日本の急速な産業化が世界史的視点から極めて重要であることが認められ，世界文化遺産として登録されました。

以下に示す8県11市に23の構成資産があります。

- 長崎県：長崎市
- 福岡県：北九州市，大牟田市，中間市
- 佐賀県：佐賀市
- 熊本県：荒尾市，宇城市
- 鹿児島県：鹿児島市
- 山口県：萩市
- 岩手県：釜石市
- 静岡県：伊豆の国市

Q 世界遺産としての価値はどこにあるのですか？

「明治日本の産業革命遺産」は，九州・山口を中心に8県11市に分布する23の資産で構成されています。これらは，製鉄・製鋼，造船，石炭産業において，急速な産業化を成し遂げたことを証言する遺産群であり，23の資産全体で一つの世界遺産としての価値を有します。

Q どのような構成資産がありますか？

幕末以降，欧米列強のアジア進出の危機感の中で，西洋技術の導入と，これを基礎とした九州・山口を中心とした地域において進められた産業化の過程がわかる，製鉄・製鋼，造船，石炭産業関連の資産が中心です。

下に示した長崎県内の構成資産のほか，官営八幡製鐵所関連の資産（北九州市），三池炭鉱関連の資産（大牟田市）などが含まれています。

＜長崎県にある8つの構成資産＞

小菅修船場跡〔長崎市小菅町〕Ⓒ
1869年，薩摩藩とグラバーによって建設された日本最初の蒸気機関による曳揚げ装置を備えた船の修理施設（スリップドック）。

三菱長崎造船所　第三船渠（せんきょ）〔長崎市飽の浦町〕Ⓒ
1905年に建設された大型船の修理施設（ドック）。船の大型化にともなって3度拡張された。

三菱長崎造船所　ジャイアントカンチレバークレーン〔長崎市飽の浦町〕Ⓒ
1909年，造船所の工場設備電化に伴い日本に初めて建設されたイギリス製の電動クレーン。

三菱長崎造船所　旧木型場（きがたば）〔長崎市飽の浦町〕Ⓒ
1898年，鋳物製造のため，木型を製作する工場として建設。現在は史料館となっている。

三菱長崎造船所　占勝閣〔長崎市飽の浦町〕Ⓒ
1904年に建設された木造2階建の洋館。現在もほぼ当時の姿で，迎賓館として使用されている。

高島炭坑（北渓井坑跡（ほっけいせいこう））〔長崎市高島町〕※
1869年，佐賀藩がグラバーと開発した近代的炭坑で，日本で最初に蒸気機関を取り入れた。

端島（はしま）炭坑〔長崎市高島町〕※
明治の中期以降，良質の石炭を産出した。明治末には八幡製鐵所にも原料炭を供給。その外観から「軍艦島」と呼ばれている。

旧グラバー住宅〔長崎市南山手町〕※
1863年建設。日本の主要産業の近代化に貢献したイギリス商人トーマス・グラバーの活動拠点。　（写真提供：長崎県観光連盟）

◇ ※を付記した写真の提供元は長崎県観光連盟
◇ Ⓒを付記した写真の提供元は三菱重工業（株）長崎造船所